

■■日本現代中国学会ニューズレター第 28 号■■

2009 年 10 月

---

CONTENTS

■ 卷頭言

■ 日本現代中国学会第 59 回全国学術大会のご案内

■ 「学会設立 60 周年」「中国建国 60 周年」記念論文集の刊行

■ 訃報

■ 日本現代中国学会事務局宛寄贈図書・雑誌

■ 事務報告

■ 地域部会活動報告

---

【卷頭言】

地域研究と“異邦人のまなざし”

加藤弘之（神戸大学）

先日、京都大学で比較経済体制研究会主催による拙著『進化する中国の資本主義』（久保亨と共著、2009 年、岩波書店）の合評会を開いてもらうという幸運に恵まれた。市場移行国（ロシア、中東欧、中国）を研究対象とする中堅・若手研究者と、社会主義とは何だったのか、市場経済への移行は終わったのか、中国独自の資本主義は成立するのか等々、実証研究とは少し距離を置いた自由な議論ができ、充実した時間を過ごすことができた。拙著自身が、社会主義時代の断絶を超えて中国資本主義の歩みを 100 年のタイム・スパンで考えるという発想から生まれたものであり、こうした議論ができたことは望外の幸せというべきだろう。

合評会後の懇親会では、例によって議論はさらに熱を帯び、中国やロシア・中東欧を研究する意義はなにかという話になった。地域研究の意義は、と問われると、中国研究者にとってはあまりに自明のこと（中国のプレゼンスの大きさ、日本との関わりの深さなど）のように思われ、議論の対象にはならないことが多い。しかし、少なくとも社会科学分野における中国研究の置かれた位置を冷静に考え直してみると、実はとても深刻な問題提起であると改めて思わざるを得ない。

ある中堅のロシア経済研究者は、地域研究としてのロシア研究には何の興味もないと断言する。より普遍的な価値をもつ理論（かつては社会主義というシステムの研究、近年では移行経済の研究）への貢献にこそ意義があると考えからに他ならない。こうした考えを持つロシア・中東欧研究者は、社会科学に限定すれば今日でも多数派を構成しているように見える。もっとも、1991 年のソ連崩壊後、筋金入りのマルクス主義者でさえも（であるがゆえに）、研究を続けるエネルギーを維持することは容易ではなくなっている。また、

市場移行がほぼ終了したと考えられる今日、移行理論の研究が今後も一つの研究領域として成り立つかどうかは疑わしい。とすれば、若手は何を目的として研究すればよいのだろうか。

この問題はロシア・中東欧研究に留まらない。中国研究についても、程度の差はあれ同じことがいえるのではないだろうか（両者の違いは、「ロシア的なもの」への関心の深さと「中国的なもの」への関心の深さの違いによる）。

過去を振り返ってみよう。情報の圧倒的な不足が原因の一つとはいえ、毛沢東の発動したプロレタリア文化大革命こそが、ソ連とは異なる新しい社会主義を追求するものだとする文革礼賛論が出現して一世を風靡し、やがて消滅した。中国が貧しい開発途上国であることが広く知れ渡るようになると、社会主義中国の魅力は一挙に失われたものの、開発経済学や社会学のケース・スタディとして中国はおもしろい素材を提供しており、中国国内での実証研究の立ち後れと相まって、研究材料には事欠かなかった。その後、30年間続いた高度成長によって中国が豊かになると、今度は、ビジネス対象としての中国の魅力が高まり、中国研究の一部は情報へのアクセスが早いシンクタンクや企業調査部のものとなった。よりアカデミックな領域では、他分野からの参入や先進国で近代経済学を学んだ中国人研究者の台頭により、表面的には活況を呈しているように見える。しかし、中国人ほど現地の情報・人脈に通じているわけでもなく、他分野からの参入者ほど洗練された分析ツールに詳しいわけでもない、いわゆる「中国研究者」の居場所はますます狭くなっているのが実情だろう。

このように考えると、少し大げさに聞こえるかもしれないが、中国研究はいまや存亡の危機に瀕しているといってもよい。中国研究が一つの研究領域として生き残るためには、なにが必要だろうか。私は、地域研究としての意義、言い換えれば、「中国的なもの」に徹底してこだわる以外に、生き残る道はないと考えている。

パリ在住の社会心理学者・小坂井敏晶氏の自伝的な書物『異邦人のまなざし』（現代書館、2003年）を読んで、異文化と創造性について大いに同感するところがあった。小坂井氏は、長年、異文化の中で生活をし、学生を教え、研究を続けているわけだが、その経験に基づき、「異質性、周辺性、少数派性」が想像力を生む源泉であると主張する。詳しくは上掲書をご覧ください。常識とは異なる異質なデータや理論がぶつかり合い、その間の矛盾を乗り越えようとする努力から新しい考えが発見される。「異邦人のまなざし」を持ち、異国で異国を研究する意義はここにあると、小坂井氏は説く。

異国で異国を研究する意義とは多少ずれがあるが、中国研究に引きつけていえば、日本人という「異邦人のまなざし」で中国を観察することによってはじめて発見できるものがあり、それが中国人の「常識」と異なるとすれば、それは必ず意味のある問題提起になっているはずである。さらにいえば、それは中国人自身が認識していなかった「中国的なもの」の発見、あるいは再評価につながるかもしれない。「中国的なもの」が発見されたとしても、それは普遍的な価値を持ち得るだろうか。答えはイエスである。「周辺性」、すなわち「中心にいないからこそ新しい価値の創造が可能になる」側面があると同時に、「少数派」の問題提起が世界の「常識」を変える力をもつかもしれないからだ。別の言い方をすれば、個別研究を突き抜けた向こうに、普遍の真理が待っているのである。

中国研究を志す中堅・若手の研究者諸氏には、個別実証研究に埋没することなく、「異

邦人のまなざし」を持ち続け、中国人の中国研究とは異なる、日本人の中国研究の意義を世界に向けてアピールできるような創造的な研究を大いに期待したいものである。

(2009年10月1日、建国60周年の国慶節)

## 【日本現代中国学会第59回全国学術大会のご案内】

日本現代中国学会第59回全国学術大会のご案内

会員各位

拝啓、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、下記の要領にて、神戸大学において今年度の全国学術大会を開催いたしますので、ご案内申し上げます。

中華人民共和国の建国60年の節目に当たる今大会では、孫中山記念会との共催により、17日(土)午後、「国際シンポジウム：中華人民共和国の60年—中国はなにを成し遂げ、どこに向かおうとしているのか—」を開催し、中国から著名なお二人の学者を招聘します。

また、18日午前には、ホットイシューである少数民族問題を取り上げる特別分科会、農民工へのアンケート調査に基づく分科会1、歴史の中での民意と権力の問題を論じる分科会2を同時並行して開催いたします。さらに18日午後には、若手を中心とした自由論題報告を6会場で実施いたします。

秋は神戸がもっとも美しい季節です。天候に恵まれれば、神戸大学百年記念館から大阪湾が一望できます。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

記

[日時] 2009年10月17日(土)・18日(日)

[会場] 神戸大学百年記念館、六甲台キャンパス本館

[交通] 阪急六甲、JR六甲道より神戸市バス36系統鶴甲団地行きにて、神大文理農学部前下車(神戸大学百年記念館)、神大正門前下車(六甲台キャンパス本館)。詳細は神戸大学のホームページでご確認ください。

[資料代] 1000円

神戸大学実行委員会

委員長：加藤弘之

委員：石原享一、王柯、濱田麻矢、緒形康

神戸市灘区六甲台町2-1 神戸大学大学院経済学研究科

電話&FAX 078-803-6841

※大会プログラムについては、学会 HP：<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jamcs/index.html>

をご覧ください。

## 【「学会設立 60 周年」「中国建国 60 周年」記念論文集の刊行】

60 周年記念出版企画委員 大西 広

学会設立 60 周年、中国建国 60 周年を記念した出版物を発行しました。  
会員には 1 割引き、送料なしで販売します。

会員の皆さんにご報告とお願いです。それは、学会設立 60 周年、中国建国 60 周年を記念した出版物として、この度、『建国 60 年の中国—毛沢東から胡錦濤への連続と不連続—』という論文集を日本現代中国学会編で創土社から出版しましたので、ご購入・ご活用をお願いです。

本の装丁などは <http://www.soudosha.jp/kinkan.html> でご欄いただけ、それだけでも大変魅力的なものとなっていますが、巷に溢れる「自称中国ウォッチャー」の中国論ではなく、学会で試され済みの、しかし、だからこそ新しい議論を展開できている論文ばかりとなっています。目次は次のようになっています。

### 第一部 毛沢東時代再論

- |                                      |      |
|--------------------------------------|------|
| 第 1 章 毛沢東の思想と文化大革命                   | 近藤邦康 |
| 第 2 章 文革期民衆の集合行為—構造・価値・過程の統合的視座から—   | 金野 純 |
| 第 3 章 毛沢東時代の経済パフォーマンス                | 唐 成  |
| 第 4 章 毛沢東時代のリベラリズム—「百家争鳴・百花齐放」をめぐって— | 水羽信男 |

### 第二部 鄧小平時代再論

- |                              |      |
|------------------------------|------|
| 第 5 章 『思想解放』と『改革開放』          | 砂山幸雄 |
| 第 6 章 改革開放の始まりと終わり：市場移行の視点から | 加藤弘之 |
| 第 7 章 問題としての近代から見た「毛鄧」時代     | 宇野木洋 |

### 第三部 (胡錦濤の)現代に復活する毛沢東

- |                              |      |
|------------------------------|------|
| 第 8 章 中国的抵抗権思想としての現代の毛沢東     | 季 衛東 |
| 第 9 章 文革の表象から脱却する中国現代アート     | 牧 陽一 |
| 第 10 章 映画における毛沢東文芸へのアレルギーの消失 | 好並 晶 |

### 第四部 世界史の中の中国

- |                                  |      |
|----------------------------------|------|
| 第 11 章 冷戦と中国の社会主義体制              | 奥村 哲 |
| 第 12 章 現代化建設と中国外交—華国鋒時代から鄧小平時代へ— | 石井 明 |

創土社には年報『現代中国』の発行でお世話になっている上に、今回のような採算性のない出版でお世話となったという経過があります。ですので、是非、学会への協力という意味も含めて、会員の皆さまにはご購入をいただけませんか。

創土社（〒165-0031 東京都中野区上鷲宮 5-18-3 電話 03-3970-2669、電子メール [info@soudosha.jp](mailto:info@soudosha.jp)）までご連絡いただければ幸いです。お申し込みいただければ会員には

1 割引き（送料・送金料も出版社負担）でお分けいただければ幸いです。

よろしくお願いいたします。

### 【訃報】

市村金次郎（高知女子大学名誉教授）：2009年7月8日、膵臓がんにて逝去。享年80歳。

並木頼壽（東京大学大学院総合文化研究科教授）：2009年8月4日、胃がんにて逝去。享年61歳。現中学会事務局長、副理事長を歴任。

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

### 【日本現代中国学会事務局宛寄贈図書・雑誌】

（2009年4月～2009年8月）

・福島綾子『香港の都市再開発と保全—市民によるアイデンティティとホームの再構築—』九州大学出版会、2009.2.28

・柳哲雄『アジアと向きあう—研究協力見聞録—』九州大学出版会、2009.2.28

・曾田三郎『立憲国家中国への始動—明治憲政と近代中国—』思文閣出版、2009.5.20

・福本和夫『福本和夫著作集第六巻—中国思想の位相論—』こぶし書房、2009.7.30

・アジア経済研究所『アジア経済』2009年7月号まで

・“East Asian Policy” Volume 1, No.1, 3, East Asian Institute, National University of Singapore

### 【事務報告】

#### 日本現代中国学会 2009年第2回常任理事会議事録

[日時] 2009年7月19日（日）午後2時～午後5時

[会場] 摂南大学大阪センター

[出席者]（11名、順不同）佐々木信彰、村田雄二郎、瀬戸宏、高見澤磨、辻美代、岩佐昌暲、白水紀子、加茂具樹、大西広、菅原慶乃、加藤弘之

[議題]

#### ●報告事項

##### 1. 経過報告

瀬戸事務局長より経過報告があった（ニューズレター、学会HP掲載済事項は略）。

・学会現勢は6月30日現在個人会員688人、団体会員4人、計692人。昨年同時期は計670人で、ここ数年漸減傾向が続いていたが再び増加に転じた。

・昨年の京大人文学研究所、東大東洋文化研究所に引き続き、依頼に応じて愛知大学現代中国研究センター、京都大学地域研究統合情報センターに、共同利用・共同研究拠点申請要請書を発行した。今後も、この種の会員が関わり現中学会の趣旨に合致するものは原

則としてすべて応じていく。

・大阪経済大学関係者より 6 月 26 日開催国際シンポジウム宣伝のため名簿の貸し出し要請があり、理事会 ML で可否を諮ったところ、無条件の貸し出しに疑問を呈する意見が出された。その後理事会での議論を知った関係者より要請取り下げの連絡があった。

## 2. 会計報告

菅原慶乃会計より会計報告があった。

## 3. 編集委員会報告

白水紀子編集委員長より、『現代中国』83号編集は順調に進み本年九月末には発行できる見通しである旨報告があった。

## 4. 広報委員会報告

加茂具樹委員長より、ニューズレター26号、27号を発行したこと、学会ホームページがほぼ完成した旨報告があった。

## 5. 企画報告

大西企画担当理事より、論文集編集はほぼ終わり8月末発行予定である旨報告があった(9月25日現在すでに発行。本ニューズレター別項参照)。

## 6. 各地域部会報告

・関東、関西、西日本各地域部会代表より5月から6月にかけてニューズレターで予告された研究集会、大会が予定通り行われた旨報告があった。

・岩佐西日本部会代表より、5月30日開催の西日本理事会で、西日本部会代表に新谷秀明理事、会計に松岡純子理事が選任された旨報告があった。常任理事交代については、今後西日本理事会で協議する。

・辻関西部会代表より、関西理事会の総意として地域部会援助金の増額を望む要請がなされた。

## 7. その他

特に報告はなかった。

## ●審議事項

### 1. 本年度全国大会

開催校代表(加藤弘之理事)、事務局長からの提案を討論し、以下の事項を了承、決定した。

・理事会は、本年度は土曜日午前中とする(昼食時含め3時間確保)。共通論題は土曜日午後とする。なお、金曜日夜は共通論題招待報告者(国外)の小規模な歓迎会をおこなう。

・共通論題は孫文記念館と共催とし、すでにポスター、チラシができあがっている。

・自由論題および分科会は日曜日におこなう。会場(教室)は自由に確保できるので、昨年までと同様の報告時間が保証できる。

・総会は日曜日昼30分とする。これに関連して、各専門部会、地域部会報告は事務局長の経過報告に一本化し、時間の節約を図る。ただし会計報告、会計監査報告はこれまでと同様におこなう。

・開催校援助金は本年は35万円渡しきりとする。自由論題公募、大会プログラム公募など事前準備に要する費用、大会案内の発送、参加申し込み受付業務(当日受付を含まず)、そ

れに関連する郵送・印刷実費および理事会弁当代は本部負担とする。これらにより、大会費用の総額は昨年度とほぼ同額の見通しである。

・開催校の負担軽減のため、学会費の大会時納入、『現代中国』参加者手渡しは廃止する。学会費は振込納入のみとする。また、大会参加費、懇親会参加費も事前振込納入とする（ただし大会参加費、懇親会参加費は大会当日も受け付ける）。学会費納入方法変更および大会参加費、懇親会参加費の事前振込納入制に伴う技術的問題は、事務局長が事務局（大学生協学会支援センター）と協議し解決することとする。

・7月31日締切の自由論題、分科会調整のため、開催校および関西部会事務局で構成するプログラム委員会を8月5日ないし6日に開催する（8月5日に開催）。

## 2. 『現代中国』執筆要領改訂

5月1日付で理事会メーリングリストを通して各理事に配布した編集委員会原案について、白水編集委員長より説明があり、討議の結果原案を一部修正のうえ承認した。改訂された執筆要綱は『現代中国』83号に掲載されるほか、すでに学会HPに掲載されている。

## 3. 名簿の扱い

今後も名簿の貸し出し要請があることが予想され、理事会（常任理事会）に貸し出し判断権限を与えることを次期学会総会に提案することとした。ただし、学会の趣旨に合致していること、会員が関係しているものであることを条件とする。

## 4. 来年度全国大会

高見澤関東部会代表より、中央大学が引き受けを承諾した旨報告があり、理事会、総会に提案することとした。共通論題の決定方法などについては、引き続き討議することとした。

## 5. その他

関西部会要望の地域部会援助金増額について意見を交換し、地域部会活性化の見地から増額の方角で引き続き検討し、次期理事会までに結論を出すこととした。

※理事会メーリングリストで理事に配布したものに一部加筆しました。

## 【地域部会活動報告】

### ●西日本部会

2009年度西日本部会研究集会を開催しました。

[日時] 2009年5月30日（土）午後1:00～

[場所] 西南学院大学 学術研究所大会議室

[プログラム]

1:00-1:10 開会式

1:10-2:30 第一部

- ・矢羽田朋子（西南学院大学・院）「新京の都市計画及び建築から見た建国大学試論」
- ・張景珊（北九州市立大学・院）「曹禺の作品における女性像」
- ・小崎太一（熊本大学非常勤講師）「『郭沫若少年詩稿』に見る李商隱の影響」
- ・松岡純子（長崎県立大学）「許地山『綴網勞蛛』（1922）について—東南アジアにおけ

る基督教の視点から一」

2:30-3:00 ディスカッション

(休憩)

3:10-4:10 第二部

- ・新谷秀明 (西南学院大学) 「<阿姨> (家政婦) のいる風景—王安憶の小説より—」
- ・真殿仁美 (九州看護福祉大学) 「障害のある当事者の権利擁護と障害者聯合会のかかわり」
- ・横澤泰夫 (熊本学園大学) 「普世価値論争について」

4:10-4:40 ディスカッション

4:40-5:00 総会

### ●関西部会

2009年度関西部会大会を開催しました。

[日時] 2009年6月13日(土) 10:00~17:30

[会場] 大阪市立大学文化交流センター

[プログラム] 日本現代中国学会ニューズレター第27号に掲載。

---

### 日本現代中国学会事務局

〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22

大学生協学会支援センター内 日本現代中国学会事務局

TEL : 03-5307-1175 FAX : 03-5307-1196

genchu@univcoop.or.jp

郵便振替 : 東京 00190-6-155984

広報委員長 : 加茂具樹 (慶應義塾大学) ニューズレター編集 : 石塚迅 (山梨大学)

日本現代中国学会 HP : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jamcs/index.html>